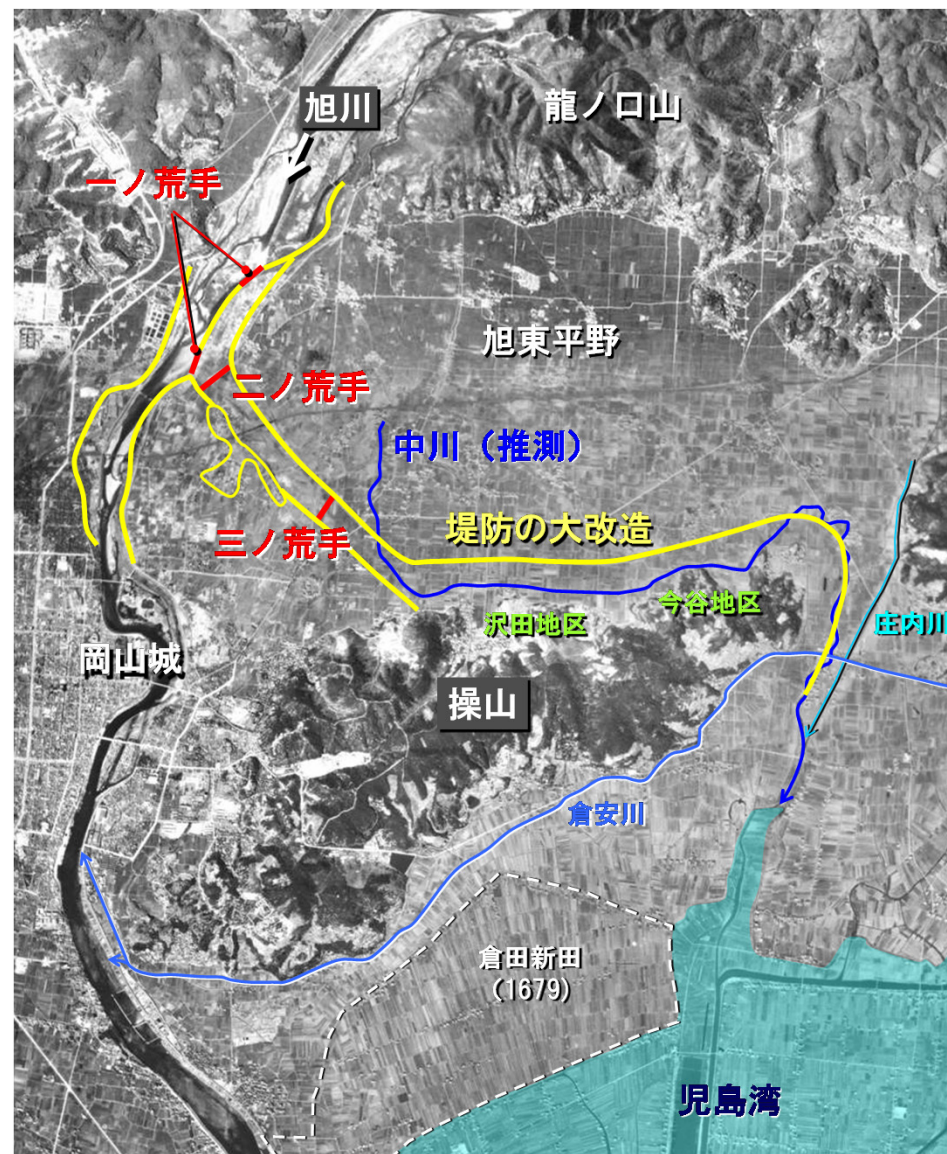


1. 昭和40年頃まで築造当時の姿だった百間川

- ・百間川は、江戸時代の初期、16世紀の後半に築造された当時の姿のままで、岡山市街を洪水から守ってきました。
- ・堤防については、操山北側の沢田・今谷地区が無堤防であったものの、現在の百間川堤防とほぼ同様の位置にて、天端幅約3m、高さ約3m程度の堤防が設けられ、河道内では稲作が行われていました。
- ・しかし、明治維新後、たびたび大きな水害に見舞われ、昭和38年から国の直轄事業として、百間川の本格的な改修事業が始まりました。



築造当時の姿を残す改修前の様子：洪水時（昭和40年）



貞享の築造：旭川東部絵図を空中写真（昭和22年撮影：国土地理院）上に比定

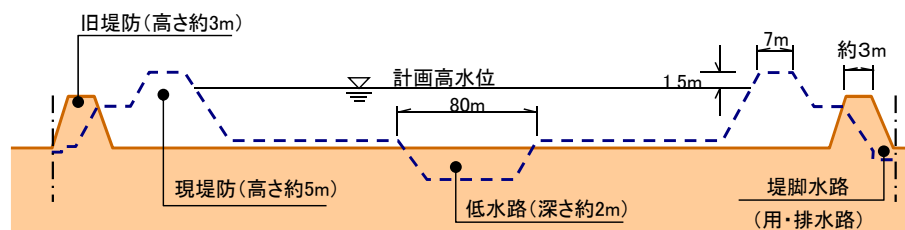
2. 百間川の本格的な大改修(昭和40年代以降)

・昭和41年、過去最大である昭和9年洪水を基に、旭川と百間川の流量配分が決まりました。しかし、百間川自体の河川断面に、その排水能力がないため、堤防などの本格的な大改修が昭和49年から始まりました。



改修前の洪水時の様子:(昭和40年、岡山市中区海吉地区)

・次の図は、江戸時代初期の築造当時と改修後の河川断面イメージです。大改修は、既存堤防のかさ上げ、無堤防地区に新たに堤防の築造、そして、平常時に水が流れる水路を掘削するというものです。洪水の際に断絶していた道路も橋梁に変わり、人々が安心して暮らせるだけでなく、岡山市東部の市街化も進みました。



築造当時と現在の河川断面イメージ



改修前の大曲付近



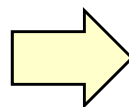
改修後の大曲付近

3. 生まれ変わった百間川

- 平成9年、計画流量、毎秒2,000トンに対応した百間川本川の堤防工事が概成しました。築造当時の堤防は高く丈夫になりました。横断していた道は洪水時でも安心して渡れる橋に、そして、計画洪水が安全に流れる河道に生まれ変わっています。



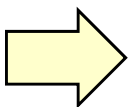
貧弱な堤防(海吉地区)



堤防整備



陸 閘



陸閘跡と橋梁(米田橋)

4. 今に残る百間川の旧堤防

- ・百間川右岸(米田橋よりやや上流付近)に、大改修以前の百間川の旧堤防が残っており、百間川築造当時の堤防の規模を確認することができます。また、この旧堤防内には、河道内を横断する道路による陸閘跡が残っています。



今に残る百間川の旧堤防



旧堤防内に残る陸閘跡



5. 「米田の旧堤防」を含めた百間川の治水施設群の位置図



6. 「米田の旧堤防」の詳細位置図

